今月の窓

中国との研究交流

６月20日から１週間の日程で，当社と研究交流を続けている中国経済発展研究会の陳錫文副会長以下５名の研究者が来日され，当社と合同で農村現地視察を行った。同副会長は，中国農政立案の中心人物（中央農村工作領導小組副組長・弁公室主任）であり，昨年４月にも来日され愛媛県のＪＡえひめ南，宇和島漁協，（株）えひめ飲料等を訪問し，協同組合の農山漁村での貢献を視察されている。

同副会長によると，中国農政には３つの大きな課題がある，という。第一は，工業化と都市化の中で優良農地をどのように守るか。第二は，農村部から都市部へ流入する農民の生活をどのように守るか。第三は，高齢化が進展する農村エリアで社会的サービス・社会福祉をどのように進めるか，である。

今回は長野県を訪れ，第一の課題について長野県農業会議，ＪＡ長野信連，長野県農業信用基金協会から，長野における農地管理の現状および農地担保についての実際の対応を聞き，佐久市においてもＪＡ佐久浅間，佐久市農業委員会から，農業委員会の運営や農地担保についての現場での考え方や実務についてヒアリングを行った。また，第三の課題に関連し，ＪＡ佐久浅間が運営するデイサービス施設を訪問し，多くの高齢者の皆さんから手作りの日中国旗で迎えられ，一同感激した。

農地を守るという課題に関しては，わが国の制度が大変参考になったようだ。わが国では農地は農林水産省が所管し，国土交通省との間でのけん制が効いている。また，譲渡，転用について農業委員会の審査を経るという手続きも重要である。中国では農地も国土資源部の管轄にあり，わが国のようなけん制は期待できない。

世界経済のけん引役として期待される中国は，同時に多くの課題を抱えている。都市と農村の不均衡な発展，所得格差の拡大，また足下では過剰流動性による資産バブル懸念もある。中国のＧＤＰが日本を追い抜くのは確実だが，人口は日本の10倍，１人当たりのＧＤＰは日本の10分の１でしかない。

陳錫文副会長は「市場経済ではすべての問題を解決できない。市場経済制度のなかでは，真に大切なもの，例えば空気・水・環境，が要素化されておらず，その重要性の認識が欠けている。それは市場経済自体の欠陥といえる。例えば，環境がいかに重要かについて認識が不足し，農業についても同様に軽視されている。最後に食糧不足になってはじめてその重要性が認識されるだろう」と語られた。

今月号のテーマは「中国・東アジアの現況と課題」。陳錫文副会長による講演会の記録も掲載している。「談話室」には昨年の訪問先，ＪＡえひめ南の林前組合長（現愛媛県農協中央会会長）にご寄稿いただいた。多くの関係者の皆さんに支えられている中国との研究交流を，今後さらに深化させていきたい。

（（株）農林中金総合研究所　専務取締役　岡山信夫・おかやまのぶお）